

2019年(令和元年)12月11日(水曜日)

「環境保護で日台交流を」

三島市内の自然環境保全などに取り組むNPO法人「グラウンドワーク(GW)三島」で、台湾出身の曾筠菲さん(22)が研修に励んでいる。「将来は環境保護や町づくりの分野で、台湾と日本の交流を増やしたい」との思いで、寒さに負けず山林や水辺を駆け回っている。

(杉原雄介)

曾さんは台湾の国立雲林科技大学でデザイン系分野を学び、今年七月に卒業。現在は京都市内に住んでいる。環境保護をテーマにしたイラストやデザイン制作に関心があり、「環境のことを学びたい」とGW三島で研修することを決めたという。

台湾出身女性 三島のNPOで研修



渡辺豊博専務理事(左)から環境保護活動について学ぶ曾筠菲さん(右)＝三島市内で

研修期間は今年四月二十七日から。市内の耕作放棄地を畑として再生するための手入れや、河畔林での雑草除去、ごみ拾いなどをやっている。「水辺の作業では、足や顔がずぶぬれになる

市内の山林、水辺で実習

こともあるけど楽しい。自然を守るためには小さい活動を積み重ねることが大事だと実感して

気込む。将来は日本での就職も考えているという曾さん。「環境保護活動が収益につながる仕組みも研修で学び、社会のためになる取り組みをしていきたい」と意

いる」と語る。市内を流れる川や富士山の美しさも日々の活力になっている。「日本は台湾の都心部よりも家やビルが低いので、散歩しながら景色を楽しめる。三島の人たちのあいさつに、必ず富士山の話が出てくるのが好き」と笑顔を見せる。

GW三島が海外出身者の研修を受け入れるのは初めて。渡辺豊博専務理事は「曾さんは現場でも主体的に動いてくれていて、デザインの知識を生かして、ブログやポスターなどで台湾にも情報発信してもらい、今後も研修生が来るきっかけになれば」と期待する。